

5月8日の説教要旨 「母の日にカーネーションに香りつけ」 春名康範牧師  
ヨハネによる福音書 13章 31節～35節

母の日にカーネーションをプレゼントする習慣は 1907 年にアメリカで始まったようですが、色に凝っている内に香りが消えてしまったそうです。目に見える物や事柄を大事にしている内に、目に見えないが香ってくる心地良いものが無くなってしまったというのは大事な警鐘を意味するのではないかと思います。親の愛情も目に見える愛情表現が強くなると、子どもにはウザく感じる場合があります。ルカ 2 : 51 には、母マリアがイエス様の行動を心配しながらも「心に納めていた」と書かれています。心に留めて祈っているという愛情表現が子どもを一番上手に育てる方法だろうと思います。

今朝のみ言葉には、「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(34 節) と書かれています。この教えを弟子たちに話された時、イエス様は弟子たちの足を洗われたとヨハネ福音書は 13 : 1～11 で記録しています。「手を洗う」行為は、「汚れを清める」という意味があり、関係を断つことや自分の正しさを主張することを意味します。他方、「足を洗う」は日本ではヤクザの組織から脱会することを意味しますが、聖書では仕えることを意味するとヨハネ 13 : 1～14 に記されています。仕えるとは、教え指導するのではなく、尻拭いをすること。これが愛です。

伊藤重平著「ゆるす愛の奇跡」には、一言注意すると暴力を振るう高校生が、お母さんから褒められたり、感謝されると生まれ変わったように生活態度が変わって、3 カ月すると自分から「俺、学校行くわ」と言って登校を始めたそうです。人間は、誰でも認められたり、褒められると、自分のことを誉めてくれる人の期待に応えたいと思うようになるのです。これが人を活かす仕える愛です。

友達の荒木崇君は、福岡の教会に牧師として赴任してすぐ体の不調を覚えて病院に検査に行きましたが、ガンでそのまま入院になり天に召されました。見舞いに行きましたら、その日に死んでいて遺体は教会に運ばれていました。病院に検査に行く時にご家族に「ホンマのクリスチャンというのはその人がいなくなった後にキリストの香りが残っている人のことやろなー」と言ったとお連れ合いから聞きました。彼の闘病生活をみて他の部屋の入院患者さんや看護婦さんがキリスト教の人は素晴らしいと言うようになったそうです。Ⅱコリント 2 : 14 に「キリストを知るとい知識の香りを漂わせてくださいます」と書かれています。私たちもキリストの香りを人に遺すような生き方をしたいですね。